患者向医薬品ガイド

2023年8月更新

ロキソプロフェンNa錠60mg「あすか」

【この薬は？】

販売名	ロキソプロフェンNa錠60mg「あすか」 LOXOPROFEN Na TABLETS 60mg
一般名	ロキソプロフェンナトリウム水和物 Loxoprofen Sodium Hydrate
含有量 (1錠中)	68.1mg（無水物として60mg）

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

・この薬は、非ステロイド性消炎・鎮痛剤（NSAID）と呼ばれるグループに属する薬です。

・この薬は、炎症にかかわるプロスタグランジンという物質の生成をおさえ、消炎・鎮痛・解熱作用をあらわします。

・次の目的で処方されます。

下記疾患並びに症状の消炎・鎮痛

関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛手術後、外傷後並びに抜歯後の鎮痛・消炎

下記疾患の解熱・鎮痛

急性上気道炎（急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む）

・この薬は、体調がよくなったと自己判断して使用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに使用し続けることが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

・消化性潰瘍のある人
・重篤な血液の異常のある人
・肝臓に重篤な障害がある人
・腎臓に重篤な障害がある人
・重篤な心機能不全のある人
・過去にロキソプロフェン Na 錠「あすか」に含まれる成分で過敏症のあった人
・アスピリン喘息（非ステロイド性消炎鎮痛剤などにより誘発される喘息発作）のある人、または過去にアスピリン喘息になったことがある人
・妊娠後期の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に告げてください。

・過去に消化性潰瘍になったことがある人
・非ステロイド性消炎鎮痛剤を長期間使用したことによる消化性潰瘍のある人で、この薬を長期に使用する必要があり、かつミソプロストールによる治療を受けている人
・血液の異常のある人、または過去に血液の異常があった人
・腎臓に障害のある人、または過去に腎臓に障害があった人
・肝臓に障害のある人、または過去に肝臓に障害があった人
・心機能異常のある人
・気管支喘息の人
・潰瘍性大腸炎の人
・クローン病の人
・感染症にかかっている人
・妊婦または妊娠している可能性のある人
・授乳中の人

○この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
空腹時の服用は避けてください。
通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

〔関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、肩関節周囲炎、頸肩腕症候群、歯痛、手術後・外傷後並びに抜歯後の消炎・鎮痛の場合〕

1回量	毎日服用の場合	1錠
	頓用の場合	1～2錠
飲む回数	毎日服用の場合	1日3回
	頓用の場合	医師の指示どおりに飲んでください。

〔急性上気道炎の解熱・鎮痛の場合〕

1回量	1錠
飲む回数	原則として1日2回までとし､1日最大3錠を限度とします。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分を飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

・この薬は炎症症状や痛みをやわらげますが、炎症などの原因を取り除いてその病気そのものを完治させる薬ではありません。

・慢性疾患（関節リウマチ、変形性関節症等）の方がこの薬を長期間にわたり継続的に使用している場合は、尿検査、血液検査および肝機能検査などが定期的に行われます。

・この薬を急性炎症、痛みや発熱をやわらげるために使用する場合は、症状が激しいときに限って使用するように指示されることがあります。この薬を急性の病気に長期間使用することは避けてください。

・この薬の副作用として、体温の下がりすぎや、虚脱、手足が冷たくなるなどの症状があらわれることがありますので、特に高熱のある高齢の人や消耗性疾患のある人は、この薬を使った後の状態に十分注意してください。

・この薬は感染による炎症症状をおさえるため、感染症の症状を把握できにくくすることがあります。

・妊娠後期の人はこの薬を使用することはできません。

・妊婦または妊娠している可能性がある人は医師に相談してください。

・授乳している人は医師に相談してください。

・高齢の人は副作用があらわれやすいため、少ない量で飲み始めるなどしてください。

・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬

を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。
このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
アナフィラキシー アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけっきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
溶血性貧血 ようけつせいひんけつ	体がだるい、めまい、息切れ、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸（どうき）、あおあざができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
血小板減少 けっしょうばんげんしょう	鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい
中毒性表皮壊死融解症（TEN） ちゅうどくせいひょうひえしゆうかいしょう（テン）	皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、発熱、粘膜のただれ
皮膚粘膜眼症候群（スティーブンス・ジョンソン症候群） ひふねんまくがんしょうこうぐん（スティーブンス・ジョンソンしょうこうぐん）	発熱、目の充血やただれ、唇や口内のただれ、円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する
多形紅斑 たけいこうはん	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、発熱、関節の痛み、喉の痛み
急性汎発性発疹性膿疱症 きゅうせいはんぱつせいほっしんせいのうほうしょう	発熱、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る
急性腎障害 きゅうせいじんしょうがい	尿量が減る、むくみ、体がだるい
ネフローゼ症候群 ネフローゼしょうこうぐん	尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、息苦しい、尿が赤みを帯びる、むくみ、体がだるい、体重の増加
間質性腎炎 かんしつせいじんえん	発熱、発疹、関節の痛み、吐き気、嘔吐（おうと）、下痢、腹痛、むくみ、尿量が減る

重大な副作用	主な自覚症状
うっ血性心不全 うっけつせいしんふぜん	息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
消化性潰瘍 しょうかせいかいよう	吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る
消化管出血 しょうかかんしゅっけつ	吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
消化管穿孔 しょうかかんせんこう	吐き気、嘔吐（おうと）、寒気、発熱、激しい腹痛、ふらつき、息切れ、意識の低下
小腸・大腸の狭窄・閉塞 しょうちょう・だいちょうのきょうさく・へいそく	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐（おうと）、お腹が張る、腹痛、下腹部の痛み、腟からの出血
劇症肝炎 げきしょうかんえん	急な意識の低下、白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
喘息発作 ぜんそくほっさ	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする、息苦しい
無菌性髄膜炎 むきんせいずいまくえん	発熱、吐き気、頭痛、うなじがこわばり固くなって首を前に曲げにくい
横紋筋融解症 おうもんきんゆうかいしょう	手足のこわばり、手足のしびれ、脱力感、筋肉の痛み、尿が赤褐色になる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	冷汗が出る、疲れやすい、むくみ、体重の増加、発熱、寒気、ふらつき、出血が止まりにくい、突然の高熱、体がだるい、脱力感、体がかゆくなる、力が入らない、急激に体重が増える
頭部	めまい、意識の消失、意識の低下、頭痛、うなじがこわばり固くなって首を前に曲げにくい、急な意識の低下
顔面	顔面蒼白（そうはく）、鼻血
眼	目の充血やただれ、白目が黄色くなる

部位	自覚症状
口や喉	咳、吐き気、嘔吐(おうと)、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色)、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色)、唇や口内のただれ、喉のかゆみ、歯ぐきからの出血、喉の痛み、血を吐く
胸部	息苦しい、息切れ、動悸（どうき)、息をするときゼーゼー、ヒューヒューと音がする
腹部	腹痛、胃がむかむかする、お腹が張る、激しい腹痛、下腹部の痛み、食欲不振
手・足	手足が冷たくなる、関節の痛み、手足のこわばり、手足のしびれ
皮膚	円形の斑の辺縁部にむくみによる環状の隆起を伴ったものが多発する、皮膚が広い範囲で赤くなり、破れやすい水ぶくれが多発、皮膚が広い範囲で赤くなる、ところどころに小さな膿をともなう発疹が出る、粘膜のただれ、全身のかゆみ、じんま疹、あおあざができる、皮膚が黄色くなる、発疹
筋肉	筋肉の痛み
便	便に血が混じる、黒い便が出る、便やおならが出にくい、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色)、下痢
尿	尿の色が濃くなる、尿が赤褐色になる、尿量が減る、排尿時の尿の泡立ちが強い、尿が赤みを帯びる
生殖器	腟からの出血

【この薬の形は？】

PTP シート	表面 裏面
形状	素錠（片面割線入り）
直径	9.0mm
厚さ	3.9mm
重さ	300mg
色	うすい紅色
識別コード	Ｇ１５６

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	日局　ロキソプロフェンナトリウム水和物
添加剤	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム、三二酸化鉄

【その他】

●この薬の保管方法は？

・直射日光と湿気を避けて室温（１～３０℃）で保管してください。

・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

・絶対に他の人に渡してはいけません。

・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：あすか製薬株式会社（https://www.aska-pharma.co.jp/）
くすり相談室
電話：０１２０－８４８－３３９
受付時間：９：００～１７：３０
（土・日・祝日および当社休日を除く）